

## I-2

あいざわただひる  
相沢忠洋さんはどんな人だったのだろうか？

あいざわただひる  
相沢忠洋さんは1926（大正15）年、東京都（当時は東京府）の生まれで、その後、神奈川県鎌倉市に移り住み、そこで土器片を見つけて考古学に興味を持ちました。両親が離婚し、履物屋に丁稚奉公に出されるなど不幸な生活のなかでも考古学に対する情熱を持ち続けました。1945（昭和20）年、第2次世界大戦に兵士として出兵していた相沢さんは、戦争が終わると群馬県桐生市に住むようになり、周辺の村々に商品を売って歩く行商をしながら考古学研究に打ち込みました。そして、1946（昭和21）年秋に岩宿遺跡を発見し、その後も調査を続け、1949（昭和24）年夏に見事に加工された黒よう石製の石槍を発見したのです。相沢さんの考古学に対する情熱が岩宿遺跡の発見に結びついたといえましょう。



● 相沢さんが発見した石槍  
（提供：相澤忠洋記念館）

1949年夏、相沢さんによって発見されたもので、長さ6.9cm。質のよい黒よう石で作られた見事な石器で、先端から左の縁に向かって特殊な加工がある。

西暦	年齢	できごと
1926年	0歳	東京都荏原郡羽田村に生まれる。
1935年	9歳	鎌倉市内の坂東札所一番杉本寺へ預けられる。
1944年	18歳	横須賀武山海兵団に志願入団。
1945年	19歳	桐生市横山町へ復員する。桐生周辺や赤城南麓の縄文時代はじめてのころの調査を開始する。
1946年	20歳	岩宿の関東ローム層から石器を発見する。
1947年	21歳	東毛考古学研究所を設立。
1949年	23歳	7月、岩宿遺跡で黒よう石製の石槍を発見する。9月、岩宿遺跡を発掘する。
1961年	35歳	岩宿遺跡発見の功績により群馬県功労者表彰を受ける。
1962年	36歳	人類学会に入会。
1967年	41歳	第1回吉川英治文化賞を受ける。
1969年	43歳	『岩宿の発見』（講談社）刊行。
1972年	46歳	宇都宮大学講師になる。
1975年	49歳	新里村に赤城人類文化研究所を設立。
1989年	62歳	5月22日、病院にて逝去。



● 納豆の行商をする相沢さん  
（提供：相澤忠洋記念館）

行商は大変だったが、遺跡を調査して歩くのには最もよい方法だったのである。